

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：33912

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03608

研究課題名（和文）中央アジアにおける牧畜社会の動態分析 家畜化から気候変動まで

研究課題名（英文）Dynamic analysis of pastoral societies in Central Asia

研究代表者

今村 薫（Imamura, Kaoru）

名古屋学院大学・現代社会学部・教授

研究者番号：40288444

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,900,000円

研究成果の概要（和文）：中央アジアの牧畜民は馬とラクダという大型家畜を飼いならすことで歴史を大きく変えてきたことが解明された。草原で紀元前5千年紀に馬の家畜化が、紀元前4千年紀に砂漠の東でフタコブラクダが、同じく紀元前4千年紀に砂漠の西でヒトコブラクダの家畜化が始まり、その後、東と西、北と南の民族の相克と交流がダイナミックに続いたのである。

とくにラクダに注目すると以下のことが明らかになった。ラクダと人間の相互関係において、狩猟の時代から家畜化の始まりという大イベントを経て、人間の生存に必要なラクダの用途が歴史的に変化した。そして現在は、ラクダ牧畜によって食糧生産と環境問題を克服しようという試みが行われている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家畜化が、人類史においてどのような意味を持ち、どのように人間社会にインパクトを与えてきたのだろうか。人間と動物の関係を、中央アジアを舞台に歴史生態学的な視点で動的にとらえなおすことが、本研究の学術的意義である。中央アジアという地域の特殊性は、地理的に乾燥地帯であること、歴史的に東西の文明が交差する場であることに集約され、これを支える生業として牧畜の重要性が明らかになった。とくに大型家畜の人間との相互作用が、家畜化の起源から現代社会の気候変動という問題まで通時的に俯瞰することで、今後の人類社会の文化と生活（食糧問題）に貢献できるという意義がある。

研究成果の概要（英文）：The objective of this study was to reexamine the relationship between humans and animals in Central Asia from the dynamic viewpoint of historical ecology. Domestication is not only limited to the beginning but also refers to the continuous utilization of meat, milk, hide, fur, carrying capacity, and mobility of animals, leading to mutual cooperation between humans and animals. The entirety of this interaction is referred to as “historical ecology.” We elucidate the reality of “historical ecology” in Central Asia through anthropological, ecological, genetic, and historical analyses.

In Central Asia, herders have lived with large livestock, such as horses and camels, which dramatically changed history with their mobility. During the interaction between camels and humans, the use of camels become necessary for the survival of humans, which in turn resulted in historical changes. Currently, the camel farming overcoming food production and environmental problems has been investigated.

研究分野：生態人類学

キーワード：中央アジア 牧畜 生態人類学 考古 歴史

1. 研究開始当初の背景

中央アジアは古くはシルクロード交易と南北交易によって「文明の十字路口」といわれ交易路のイメージが強いが、歴史的にも現代においても、実際は人間の生活が生起してきた場所である。中央アジアは単なる通過点ではない、ということが本研究の最初の問題意識である。

中央アジアには多くの遊牧民、農耕民、交易商人が暮らし、食料を生産し生活する場であり続けてきた。とくに、古代から現在までさまざまな遊牧民が生業活動を繰り広げ、その延長上に交易も存在した。ネイチャーに発表された最新の研究 (Frachetti 2017) によると、古代のシルクロードは、4000 年前以降の遊牧民の移動パターンによって形づくられたという。人間が遊牧によって自然資源を利用してきたことが、交易ルート of 地理的特性に影響を与えてきたのである。大国どうしの交易を可能にしたのは遊牧民の生業活動であった。

中央アジアは、ウマ、ラクダといった大型家畜の起源地である。最近の研究においては、家畜化とは、一度限りのイベントではなく、動物の肉、乳、皮、毛の利用に始まり、運搬力、機動力など動物の能力を人間が次々と引き出して使用する長いプロセスと捉える考え方が広がっている (たとえば、Beach & Stammer, 2006 など)。このプロセスにおいて動物の形態や行動も変化し、同時に人間側の社会組織や遺伝的特性 (例えばラクトース耐性遺伝子の増加) も変化しており、「家畜化」とは、「動物と人間の相互交渉の総体」であり、現在もまた家畜化の過程にあるといえるだろう。

とくに、大型家畜の利用は、肉・乳などの食用、毛・皮・骨の衣服や道具、工芸品への利用、糞の燃料利用、そり、荷車、井戸の引き綱などの牽引、人がまたがる騎乗、荷役を載せる運搬、儀礼の文脈でみられる象徴的使用など多岐にわたる。そして、これらの利用は時代におうじて食糧増産、芸術、交易、戦闘と人類史を推進してきた。しかし、ウマ、ラクダは地域によっては未だに半野生的であり、自律的に群れを形成して暮らしている。人間が家畜の探索と捕獲に、毎朝数時間かける場合もある。大型家畜はこれまで多様な人間との相互関係を築いてきたが、現在も家畜化の途上にある。この全体像を中央アジアにおいて解明する。

2. 研究の目的

本研究は、中央アジア牧畜民の環境利用、生業 経済活動、他民族との関係を歴史生態学的に解明することを目的とする。歴史軸の中心に「家畜化」を据える。中央アジアはウマ、ラクダなどの大型家畜の起源地であるが、「家畜化」とは動物の肉、乳、皮、毛、運搬力、移動能力などを次々と引き出す、人間と動物の相互交渉の場を意味する。自然環境、社会経済的状況の変化に応じて、家畜の形態や群れ構造が変化し、また、人間自身の社会さえも変化する。この相互作用を人類学、生態学、遺伝学、歴史学の分析手法によって解明する。本研究は人類史における家畜化のプロセスを明らかにするだけでなく、気候変動の影響を受けやすい中央アジア地域の資源の持続的利用に役立つことが期待される。さらに、ロシア、中国の政治経済的影響を受け続けた中央アジアの激動の歴史と現状をより正しく理解できると考える。

3. 研究の方法

中央アジアにおける牧畜連続体の動態を解明するために、「家畜化の開始」「交易」「環境と家畜」の3つのトピックからアプローチする。この異なる時代区分の研究は3本柱として同時進行させる。そのための研究手法は、文化人類学、リモートセンシング、生態学、DNA 分析、歴史学、考古学である。現代における家畜の生態や行動、人間から家畜への働きかけ、牧畜技術の実態は、先史時代、歴史時代の家畜動物と人間の関係を推定する有力な根拠となる。

具体的な研究方法として、牧畜社会の多様性と集団間交流の実体を歴史的に遡り、最古層から解明するために、中央アジアにおける遊牧社会形成の時代 (青銅器時代) の遺跡からの出土品を分析する。動物骨 DNA を使った家畜の系統分析と併せて、同位体分析を用いた食性解析、産地推定などを行うことによって、家畜動物の飼育形態と移動経路を推定する。

さらに、交易の実態を明らかにするために、カザフスタン、ウズベキスタンの国立文書館も所蔵されている古文書を解析する。ここにはホラズム地方の 18 世紀から 20 世紀にかけての政治史、商業史が現地語 (チャガタイ・トルコ語、ペルシア語) およびロシア語で記録・保管されており、農産品、畜産品取引を通じた定住民と遊牧民、さらに周辺地域 (おもにロシア) との歴史的な関係の変化について解明する。

現代の牧畜民の牧場に滞在し、牧畜技術についてのインタビューや、家畜に GPS を付けて行動観察や植生調査も行う。政府の経済統計資料も収集し分析する。

それぞれの研究者は、研究分野に応じた資料を使って分析をすすめるが、研究者間の情報交換を密に行いながら連携的に研究を進展させる。また、関連分野の他の研究者を加えて研究会を開催する。

4. 研究成果

中央アジアには牧畜民が多様な家畜とともに暮らして来たが、それらの中でもとくに馬とラ

クダという大型家畜を飼いならし、馬とラクダの機動力によって歴史を大きく変えてきたという独自性があることが明らかになった。草原で紀元前5千年紀に馬の家畜化が、紀元前4千年紀に砂漠の東でフタコブラクダが、同じく紀元前4千年紀に砂漠の西でヒトコブラクダの家畜化が始まり、その後、東と西、北と南(草原とオアシス)の民族の相克と交流がダイナミックに続いたのである。

以上のような人類史的、歴史的経緯を踏まえつつ、現在の牧畜社会の牧畜技術や家畜の生態から人間と動物の相互交渉のあり方を描くことにも注視した。以下に各人が解明した研究成果をまとめる。

斎藤は、日本およびカザフスタンにおいて、おもにラクダのゲノム多様性についての調査および解析を行なった。その結果、ミトコンドリアDNAのゲノム配列からも、ヒトコブラクダとフタコブラクダの系統が明瞭に異なることが明らかになった。核DNAのゲノム規模SNPデータの解析からは、ヒトコブラクダのゲノム多様性が、古代のキャラバン経路(いわゆるシルクロード)に沿って遺伝的交流をしているパターンを持つことがわかった。また2019年度にはラクダ3個体の全ゲノムDNA配列データを、2020年度にはラクダ10個体の全ゲノムDNA配列データを取得した。これらの配列解析を現在進めているが、さらに2022年度に数個体のヒトコブラクダの全ゲノムDNA配列データを決定した。

久米は、「天山山脈の最初の牧畜民」について、その由来、時期、生業の詳細について、発掘調査結果から明らかにした。中央アジアで初期の牧畜・農耕民を研究する意義は、アジアの東西で独自に生まれた食料生産革命が初めて交錯する舞台であった点にほかならない。約5000~3500年前にかけて、中央アジア東部に初期の牧畜民が進出したが、彼らは狩猟、牧畜に加えて農耕も行う複合的な生業をしていた。農耕は、自らの食料のほか、冬季に家畜に与える飼料を生産するために必要であったという。この地域の最初の牧畜民は紀元前2500年頃に定牧定農民として出現し、その後1000年程の時間をかけて山岳地の高低差を利用した移牧を編み出したと推定される。西アジアと東アジアにそれぞれ起源したムギと雑穀の中央アジア東部への伝播をもって、東西交流の始まりとみなす説が近年注目を集めている。このような「天山最古の牧畜民」の由来については、ヤギ、ヒツジ、ウシといった西アジア起源の家畜が、人々の移動とともに西アジアからクズルクム砂漠、アライ山脈をへて東進した経路のほかに、ユーラシアの草原地帯を北回りに拡散して、北から到来したという可能性にも言及した。

塩谷は、18~19世紀の中央アジアとロシアの交易に草原の遊牧民がどのように関わったかについて、現地に保存された古文書や公文書などの文書史料を使って解明した。中央アジアにおける交易は、東西交易だけでなく、ロシアと中央アジア南部のオアシス都市をつなぐ南北交易も重要である。18世紀中葉からユーラシア草原北辺に出現した要塞都市を拠点とした交易と軍事は、草原の遊牧民たちの生業活動と分かちがたく結びついていた。この交易の実態について、要塞都市オレンブルグを例に市街内部の配置、交易物品リスト、取引所の機能などから詳述する。さらに、このオレンブルグと中央アジア南部を結ぶ隊商の記録を明らかにした。ロシアと中央アジア諸国との関係は、平和な交易だけでは終わらなかった。ヨーロッパ諸国のアジアへの植民地侵略と時期を合わせ、1839~1840年には、ロシア軍はヒヴァ(現在のトルクメニスタンからウズベキスタン)へ向けて遠征した。この際、草原の遊牧民であるカザフ人からラクダなどの兵站を借り上げ、軍事進攻の重要な部分を依然として遊牧民に負っていたのである。

今村は、カザフスタンにおける2種の家畜ラクダとそれらの交雑ラクダが、同所に混在しているという現状を明らかにし、さらに、その歴史的背景について考察する。ヒトコブラクダとフタコブラクダは、それぞれユーラシアの西方である中東と、東方の中国、モンゴルを代表する家畜である。これら2種のラクダは、カザフスタンにおいて出会い、古くから現在に至るまで、雑種交配が試みられている。人間が狩猟対象であったヒトコブラクダを飼いならした場所とその目的、フタコブラクダの家畜化の起源地とその目的、さらに、これら2種を引き合わせて雑種を作り出した場所ときっかけは、それぞれ異なる。さらに雑種交配の目的自体が、時代の要請に応じて変遷してきた。この動態をラクダという動物の生物学的特徴と、人間の経済活動の変化とのすり合わせから解明した。

児玉は、中国でなぜ社会主義集団経済下においてラクダが増加したのかを切り口に、中国社会主義集団経済下のラクダ飼養の変容と適応について考察した。歴史上の変動期にいかに関与したかを、中国内モンゴル自治区エゼネー旗の統計資料とオーラルヒストリーから詳細に分析する。中国では人民公社期において、ラクダだけでなく、ヒツジ、ヤギ、ウマも増えている。ところが、エゼネー旗ではラクダだけが增加している。その理由を検討することを通して、社会主義集団経済の牧畜政策に応じたフタコブラクダの徹底的な利用と合理化について論じた。

ソロンガは、牧畜における最も重要な要素である去勢技術について、内モンゴルのフタコブラクダの事例から明らかにした。去勢は、生殖のコントロールだけでなく、家畜の群れを安定させ、食用としての肉質をよくするなどのさまざまな利点を人間にもたらす。去勢には動物の生理や衛生に関する技術的な面だけでなく、宗教的な儀礼をとともなく側面もある。去勢を通して、人間と家畜の多様な関係について考察した。

廣田は、モンゴル国カザフ牧畜民の季節移動を題材に、移動をうながす自然的・社会的要因について解明した。モンゴル国のカザフ人は主にアルタイ山脈山中に位置するバヤン・ウルギー県に居住している。同地域のカザフ牧畜民は、カザフ人がこの土地に移住してきた19世紀末から

今日に至るまで、移牧を継続してきた。彼らの季節移動がどのような自然的・社会的要因によってうながされてきたのか、現在（21世紀）においてどのようにおこなわれているのかを、長期的な現地調査によって得られた具体的事例と共に記述した。とくに、「移動」の意味が、草の豊富な土地へ移動することだけでなく、移動そのもの、つまり家畜に筋肉をつけさせるために、意図的に長距離をゆっくり移動させるという指摘が興味深い。

地田は、アラル海災害からの復興における牧畜の役割について解明した。アラル海災害は、国を越えた社会・経済的、生態環境的な大変動によって、アラル海が以前の10分の1にまで縮小し、干上がった広大な元海底が砂漠と化すという世界的に注目される環境破壊である。このようなアラル海地域に残った住民（おもにカザフ人）は、荒廃する漁業を諦め、元来の生業である牧畜に回帰した。このような災害からの復興に重要な役割を果たしてきたのは、ラクダ飼養を中心とする牧畜であった。国家レベルでの牧畜政策が地域での牧畜の実践にどのような影響を与え、地域住民もいかにレジリエンスを発揮して災害状況に柔軟に適応したかを具体的に考察した。

星野は、ユーラシア大陸中央部に広がる乾燥地・半乾燥地における家畜の生態と行動について述べる。カザフ・ドライステップとモンゴル高原という異なる景観を持つ空間で、家畜密度、人間側の人口密度、放牧庄といった個々の要因が、家畜の行動パターンや草地利用にどのような影響を及ぼすかを論じる。カザフ・ドライステップに設営されたラクダ牧場では、雨季と乾季で家畜の自発的な行動が変化するが、同時に人間も雨量の変化に合わせて家畜の行動をコントロールしている。モンゴル高原では北部の遊牧（モンゴル国）と南部の定住型放牧システム（内モンゴル自治区）という対象的な牧畜形態が存在する。これらの地域には、ともに数年周期で自然災害（ゾド）が起きるが、災害に対する被害状況はまったく異なる。その原因を放牧システムが草原の植物に与える影響から探り、遊牧システムは、草原の生態系と共生することで草原の劣化と砂漠化を防いできたことを指摘した。

本研究全体を通して、大型家畜であるラクダに注目すると以下のことが明らかになった。ラクダと人間の相互関係において、狩猟の時代から家畜化の始まりという一大イベントを経て、人間の生存に必要なラクダの用途が歴史的に変化した。そして現在は、ラクダ牧畜によって食糧生産と環境問題を克服しようという試みが行われている。このような人類揺籃と成熟の場が中央アジアであった。

【引用文献】

Beach, H. and F. Stammer 2006 Human-animal relations in pastoralism. *Nomadic Peoples*, 102:5-29.

Frachetti, M.F., C. Evan Smith, C. M. Traub, T. Williams 2017 Nomadic ecology shaped the highland geography of Asia's Silk Roads, *Nature* vol. 543, 193-208

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計73件（うち査読付論文 39件／うち国際共著 38件／うちオープンアクセス 49件）

1. 著者名 Zhunussova G., Dossybayev K., Jinam T. A., Suzuki R., and Saitou N	4. 巻 2
2. 論文標題 Phylogenetic analysis of camel complete mitochondrial DNA sequences	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 iDarwin	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Amandykova M., Dossybayev K., Mussayeva A., Bekmanov B. and Saitou N	4. 巻 14
2. 論文標題 Comparative analysis of the polymorphism of the casein genes in camels bred in Kazakhstan.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Diversity	6. 最初と最後の頁 285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/d14040285	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Fujiwara K., Kawai Y., Takada T., Shiroishi T., Saitou N., Suzuki H., and Osada N	4. 巻 14(5)
2. 論文標題 Insights into Mus musculus population structure across Eurasia revealed by whole-genome analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Genome Biology and Evolution	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/gbe/evac068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Fuki Yagi, Maira Kussainova, Buho Hoshino	4. 巻 4(88)
2. 論文標題 SUSTAINABLE LAND MANAGEMENT IN CORN FARMLAND, SOUTHEAS KAZAKHSTAN: REPORT FROM KAZAKHSTAN AND CHINA BORDER	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Central Asia's Affairs	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.52536/2788-5909.2022-4.02	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuki SENO, Christopher MCCARTHY, Maira KUSSAINOVA, Sabir NURTAZIN, Mikoto KANEKO, Nobutake NAKATANI, Satoru HOBARA, James BANFILL, Buho HOSHINO	4. 巻 32(5)
2. 論文標題 The impact of China's Belt and Road Initiative on change and losing of Central Asian oases agricultural land	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 47 - 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Christopher McCarthy, Troy Sternberg, Buho Hoshino, James Banfill, Erdenebuyan Enkhjargal, Yuki Konagaya, Simon Phillip	4. 巻 6
2. 論文標題 Preserving the Gobi: Identifying Potential UNESCO World Heritage in Mongolia's Gobi Desert	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Asia-Pacific Biodiversity	6. 最初と最後の頁 1 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Buho Hoshino	4. 巻 44
2. 論文標題 Remote sensing approach for evaluation of the impact of the China's BRI project on food security in Kazakhstan,	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 COSPAR Scientific Assembly	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Buho Hoshino,; Kazuki Seno, Maira Kussainova, Nobutake Nakatani, Satoru Hobara	4. 巻 1
2. 論文標題 Remote Sensing Approach for the Appearance and Disappearance of Oasis Farmland in Kazakhstan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium	6. 最初と最後の頁 3668 - 3671
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大久保響, 吉村珠美, 山内大樹, 星野仏方	4. 巻 47(1)
2. 論文標題 頂点捕食者が存在する生態系から見る北海道へオオカミ再導入の可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 酪農学園大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 24
2. 論文標題 序 特集 コロナ禍の海外研修・フィールドワークによせて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 117-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 24
2. 論文標題 コロナ禍のアメリカ渡航	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 265-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S21857148-24-P265	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 サラングレレル, 児玉香菜子	4. 巻 24
2. 論文標題 都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー(5) ツァヤンジ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 341-348
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S21857148-24-P341	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 24
2. 論文標題 翻訳『オールドス民話収集』（6） 銭世英著、1999年、フフホト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 349-376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S21857148-24-P349	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 今村薫	4. 巻 4
2. 論文標題 牧畜社会の始まりと家畜化の経路について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 4
2. 論文標題 人民公社解体後のラクダの減少とその要因 中国内モンゴル自治区アラシャー盟エジネー旗の事例から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 9-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 星野仏方, 八木風輝	4. 巻 4
2. 論文標題 新型コロナウイルスパンデミックがモンゴル国遊牧民とその家畜に及ぼす影響について アンケート調査と現地フィールド調査から考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 星野仏方, イチンホルロー・ダグワドルジ	4. 巻 4
2. 論文標題 自然災害によるウブルハンガイ (Ovorhangay) 県カラコルム (Kharkhorin) ・ボルガ (Bulgan) 県モゴド (Mogod) ・およびトヴ (Tov) 県アルタンブラグ (Altanbulag) における家畜頭数の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 3
2. 論文標題 ソ連時代のウズベキスタン: ヴィクトル・ドゥホヴヌイと後期ソ連の灌漑開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『K』	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩谷哲史	4. 巻 3
2. 論文標題 近世ホラズムにおける王権と水利	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『K』	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akifumi Shioya	4. 巻 102
2. 論文標題 Islam and the Nomadic Political Tradition in the 19th-Century Khanate of Khiva	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oriente Moderno.	6. 最初と最後の頁 68-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22138617-12340280	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akifumi Shioya	4. 巻 43
2. 論文標題 Shi'te Captive Release Negotiations in Khiva: A Nexus of Khivan-Iranian and Anglo-Russian Relations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Acta Slavica Iaponica,	6. 最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jinam T. A., Hosomichi K., Nakaoka H., Phipps Maude E., Saitou N. and Inoue I.	4. 巻 83
2. 論文標題 Allelic and haplotypic HLA diversity in indigenous Malaysian populations explored using Next Generation Sequencing	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Human Immunology	6. 最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.humimm.2021.09.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Jinam T. A., Kawai Y., and Saitou N.	4. 巻 129(1)
2. 論文標題 Modern human DNA analyses with special reference to the inner dual-structure model of Yaponesian	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Anthropological Science advance publication	6. 最初と最後の頁 3-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1537/ase.201217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuro Hagiwara, Tamaki Matsumoto, Purevsuren Tsendendamba, Kenji Baba, Buho Hoshino	4. 巻 12(11)
2. 論文標題 Bacterial Characteristics of Dust Particle Saltation in Gobi Dust Sites, Mongolia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Atmosphere	6. 最初と最後の頁 1456-1456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/atmos12111456	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Buho Hoshino, Kazuki Seno, Christopher McCarthy, Maira Kussainova, Sabir Nurtazin, Mikoto Kaneko, Nobutake Nakatani, Satoru Hobara, James Banfill	4. 巻 1
2. 論文標題 Investment in China's Belt and Road Project in Kazakhstan and its Risk Assessment	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceeding of The 3rd World Conference on Research in Social Sciences	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Buho Hoshino*, Daishi Matsukawa, Takashi Sasamura, Tserendulam Tserenochir, Uuganbayar Ganbold, Christopher McCarthy, Masami Kaneko, Atsuko Sugimoto	4. 巻 2021(1)
2. 論文標題 Microtopographical Characteristics of Forest Dieback in a Semi-Arid Region Retrieved from Ground and Satellite Data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IEEE Xplore	6. 最初と最後の頁 6735-6738
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/IGARSS47720.2021.9554115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Christopher McCarthy, James Banfill, Buho Hoshino	4. 巻 2021(3)
2. 論文標題 National Parks, Protected Areas and Biodiversity Conservation in North Korea: Opportunities for International Collaboration	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Asia-Pacific Biodiversity	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japb.2021.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shioya, Akifumi	4. 巻 64(1-2)
2. 論文標題 The Association between the Descendants of Sufi Saint Sayyid Ata and the Khans of Khiva at the Beginning of the 19th Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Central Asiatic Journal	6. 最初と最後の頁 183-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13173/centasiaj.64.1-2.0183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 塩谷哲史	4. 巻 92
2. 論文標題 19世紀中葉のヒヴァ = ロシア関係再考 シュクルツラー・アガのロシア、オスマン両帝国への派遣について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 サランゲレル・児玉香菜子	4. 巻 22
2. 論文標題 都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー (4) オユンゲレル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 77-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S21857148-23-P77	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 23
2. 論文標題 『オルドス民話収集』 (5) 銭世英著、1999年、フ フホト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 89-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S21857148-23-P89	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lado S., Elbers J. P., Daskocil A., Scaglione D., Trucchi E., Banabazi M. H., Almathen F., Saitou N., Ciani E., and Burger P. A.	4. 巻 3
2. 論文標題 Genome-wide diversity and global migration patterns in dromedaries follow ancient caravan routes.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Communications Biology	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s42003-020-1098-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Li Y., Fujiwara K., Osada N., Kawai Y., Takada T., Kryukov A. P., Abe K., Yonekawa H., Shiroishi T., Moriwaki K., Saitou N., and Suzuki H.	4. 巻 126
2. 論文標題 House mouse <i>Mus musculus</i> dispersal in East Eurasia inferred from 98 newly determined mitogenome sequences.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heredity	6. 最初と最後の頁 132-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41437-020-00364-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Keita Shima, Buho Hoshino, Ying Tian, Zoljargal E, Saixialt Bao, Yintay Na, Myagmarjav, Myagmartseren P	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 Spatial distribution pattern of dryland plants : turing pattern in water limited conditions	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mongolian Journal of Agriculture Sciences	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5564/mjas.v28i03.1300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Troy Sternberg, Chris McCarthy, Buho Hoshino	4. 巻 12(10)
2. 論文標題 Does China 's Belt and Road Initiative Threaten Food Security in Central Asia?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Water	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/w12102690	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Buho Hoshino, Ying Tian, Keita Shima, Su Riga, Zoljarga Enkhtuvshin, Christopher McCarthy	4. 巻 2020(1)
2. 論文標題 Remotely Sensed Method for Detection of Spatial Distribution Pattern of Dryland Plants in Water Limited IN WATER LIMITED ECOSYSTEM	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IEEE Xplore	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/IGARSS39084.2020.9324058	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuro Hagiwara, Tamaki Matsumoto, Purevsuren Tsendendamba, Kenji Baba, Buho Hoshino	4. 巻 11(9)
2. 論文標題 Distribution of Viable Bacteria in the Dust-Generating Natural Source Area of the Gobi Region, Mongolia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Atmosphere	6. 最初と最後の頁 893-893
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/atmos11090893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 星野 仏方*, ソ リガ, Christopher McCarthy, 今村 薫	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 遊牧文化における人と動物(家畜)の相互関係; モンゴルの遊牧システムと内モンゴル自治区の定住システムにおける家畜の行動の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of The World Conference on Research in Social Sciences	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33422/socialsciencesconf.2020.02.52	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 塩谷 哲史	4. 巻 45
2. 論文標題 ヒヴァ・ハン国史研究とフィールドでの史料調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 筑波大学地域研究	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 22
2. 論文標題 『オールドス民話収集』(4) 銭世英著、1999年、フフホト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 389-408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 サラングレル・児玉香菜子・白梅	4. 巻 22
2. 論文標題 都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー(3) インチュン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 375-387
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 23
2. 論文標題 モンゴル牧畜文化をまなぶ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94821	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 全面的集団化前夜のカザフ人牧畜民(1928年): 『パイ』の排除政策と牧畜民社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域研究	6. 最初と最後の頁 13-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 201
2. 論文標題 ベレストロイカと環境問題: 『アラル海問題』をめぐるポリティクス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 33-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 61(3)
2. 論文標題 環境と地理からみる中央アジア地域研究のあり方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 81-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shioya Akifumi	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 The Treaty of Ghulja Reconsidered: Imperial Russian Diplomacy Toward Qing China in 1851	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 147-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 23
2. 論文標題 環境破壊の歴史と今を追う：中央アジア・アラル海地域の社会変容と持続可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FieldPlus	6. 最初と最後の頁 27-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米正吾、新井オ二、覚張隆史、辰巳祐樹、早川裕式、藤澤明、宮田佳樹、山口雄治、イングリダ・チチウルカイテ、ケーストゥティス・ベセカス、ゲドレ・モツザイテ・マツゼビチウテ、ヒクマトウツラ・ホシモフ、アイダ・アブディカノワ、ボキジョン・マトババエフ	4. 巻 27
2. 論文標題 中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る キルギス、モル・ブラク1遺跡(第3次)、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡(第2次)の発掘調査(2019年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 21
2. 論文標題 都市在住モンゴル人女性のオーラルヒストリー(2)ジンファー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 175-180
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 23
2. 論文標題 モンゴル牧畜文化をまなぶ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FieldPlus	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 21
2. 論文標題 『オルドス民話収集』(3) 銭世英著、1999年、フフホト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 181-199
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Noda, Sota Tomizawa, Buho Hoshino, Erdenebadrakh Munkhjargal, Kei Kawai, Kenji Kai	4. 巻 1(4)
2. 論文標題 Atmospheric dust as a possible survival factor for bioaerosols	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EDP Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1051/e3sconf/20199904007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morine Kuribayashi, Keiichi Kawano, Yuta Demura, Kenji Baba, Yuki Sofue, Purevsuren Tsedendamba, Tamaki Matsumoto, Katsuro Hagiwara, Olaf Karthaus, Kenji Kai, Buho Hoshino	4. 巻 1(4)
2. 論文標題 Imaging of micro-organisms on topsoil particles collected from different landscape in the Gobi Desert	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EDP Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1051/e3sconf/20199901011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wenjing Xu, Qiongyu Huang, Jared Stabach, Hoshino Buho, Peter Leimgruber	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 Railway underpass location affects migration distance in Tibetan antelope (<i>Pantholops hodgsonii</i>)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plos One	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0211798	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kanzawa-Kiriyama H., Jinam T. A., Kawai Y., Sato T., Hosomichi K., Tajima A., Adachi N., Matsumura H., Kryukov K., Saitou N., Shinoda K.	4. 巻 127(2)
2. 論文標題 Late Jomon male and female genome sequences from the Funadomari site in Hokkaido, Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 83-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 今村薫	4. 巻 1
2. 論文標題 フタコブラクダによる運搬技術 モンゴル国に住むカザフ人の例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 75-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久米正吾	4. 巻 1
2. 論文標題 キルギス、天山山中の移牧民遺跡の考古学調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塩谷哲史	4. 巻 1
2. 論文標題 19世紀中葉オレンブルクにおける交易について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 児玉香菜子	4. 巻 1
2. 論文標題 フタコブラクダの食用利用と経済的利用—中国内モンゴル自治区アラシャ 盟エゼネー旗の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 地田徹朗、タルガルバイ・コヌスバエフ	4. 巻 1
2. 論文標題 カザフスタン・小アラル海地域での牧畜の特性に関する萌芽的調査—遠隔村・アクバトゥ村を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 49-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 星野仏方	4. 巻 1
2. 論文標題 カザフドライステップにおける家畜行動パターンとモンゴル国立公園におけるモウコノウマの餌資源をめぐる調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 斎藤成也	4. 巻 1
2. 論文標題 カザフスタンにおけるラクダ2種類の雑種DNA	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中央アジア牧畜社会研究叢書	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今村薫	4. 巻 55(2)
2. 論文標題 カザフ人の移牧にともなう伝統技術 ラクダによる運搬と移動式住居の組み立て方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15012/00001136	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Buho HOSHINO, Yuki SOFUE, Yuta DEMURA, Tsedendamba PUREVSUREN, Morine KURIBAYASHI, Kenji BABA, Enkhtuvshin ZOLJARGAL, Katsuro HAGIWARA, Jun NODA, Keiichi	4. 巻 28(S)
2. 論文標題 Detection of dry lake beds formation and estimate of environmental regime shift in semi-arid region	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Arid Land Studies	6. 最初と最後の頁 109-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14976/jals.28.S_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Na, Y., Li, J., Hoshino, B., Bao, S., Qin, F.	4. 巻 10(12)
2. 論文標題 Effects of Different Grazing Systems on Aboveground Biomass and Plant Species Dominance in Typical Chinese and Mongolian Steppes	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su10124753	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Christopher McCarthy, Hitoshi Shinjo, Buho Hoshino and Erdenebuyan Enkhjargal	4. 巻 7(4)
2. 論文標題 Assessing Local Indigenous Knowledge and Information Sources on Biodiversity, Conservation and Protected Area Management at Khuvsgol Lake National Park, Mongolia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Land	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/land7040117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Khaliunaa Tsevegmid, Masaharu Motokawa, Hongfeng Zhang, Junfeng Pei, Masakazu Asahara, Wei-Jan Wen, Chuguang Liu, Halik Mahmut, Xiaomin Wu, Buho Hoshino and Mitsuhiro Asakawa	4. 巻 4(4)
2. 論文標題 A Helminthological Record on Free-Ranging Pikas and Rodents Collected from Tibetan Plateau, China: Preliminary Results	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of Clinical Cytology and Pathology	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Steven G. Pueppke, Margulan Iklasov, Volker Beckmann, Sabir Nurtazin, Niels Thevs, Buho Hoshino, Sayat Sharakhmetov	4. 巻 10(4)
2. 論文標題 Challenges for sustainable use of the fish resources from Lake Balkhash, a fragile lake in an arid ecosystem	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su10041234	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Tsedendamba, P., Dulam, J., Baba, K., Hagiwara, K., Noda, J., Kawai, K., Sumiya, G., McCarthy, C., Kai, K., Hoshino, B.	4. 巻 10(69)
2. 論文標題 Northeast Asian Dust Transport: A Case Study of a Dust Storm Event from 28 March to 2 April 2012	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Atmosphere	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/atmos10020069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wenjing Xu, Qiongyu Huang, Jared Stabach, Hoshino Buho, Peter Leimgruber	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 Railway underpass location affects migration distance in Tibetan antelope (<i>Pantholops hodgsonii</i>)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Plos One	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0211798	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 1 031
2. 論文標題 カザフスタンにおける『近代化』と強制農業集団化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	6. 最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 N. V. Aladin, T. Chida, Yu. S. Chuikov, Z. K. Ermakhanov, Y. Kawabata, J. Kubota, P. Micklin, I. S. Plotnikov, A. O. Smurov and V. F. Zaitsev	4. 巻 36(6)
2. 論文標題 The history and future of the biological resources of the Caspian and the Aral Seas	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Oceanology and Limnology	6. 最初と最後の頁 2061-2084
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 地田徹朗	4. 巻 2008/2
2. 論文標題 中央アジア・アラル海地域の環境・社会・経済：持続可能な開発に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地理・地図資料	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計58件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 26件）

1. 発表者名 BUHO HOSHINO
2. 発表標題 Reintroducing Wolves to Hokkaido (Japan) Possibilities and Challenges Based on a Comparison with Mongolian Nomads ' Relationships with Wolves
3. 学会等名 International Wolf Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 BUHO HOSHINO
2. 発表標題 REMOTE SENSING APPROACH FOR THE APPEARANCE AND DISAPPEARANCE OF OASIS FARMLAND IN KAZAKHSTAN
3. 学会等名 The International Geoscience and Remote Sensing Symposium (IGARSS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 BUHO HOSHINO
2. 発表標題 Remote sensing approach for evaluation of the impact of the China's BRI project on food security in Kazakhstan
3. 学会等名 COSPAR Athens (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Buho Hoshino, Kazuki Seno, Christopher McCarthy, Maira Kussainova, Sabir Nurtazin, Mikoto Kaneko, Nobutake Nakatani, Satoru Hobara, James Banfill
2. 発表標題 中央アジアのオアシス農地の出現と消失におけるリモートセンシング
3. 学会等名 geoENV
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 児玉香菜子
2. 発表標題 オーラルヒストリーからみるモンゴル牧畜民女性の大都市進出過程とその背景 中国フフホト市の事例から
3. 学会等名 日本モンゴル学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tetsuro Chida
2. 発表標題 The Role of Pastoralism in the Recovery from the Aral Sea Disaster in Small Aral Sea Region in Kazakhstan
3. 学会等名 “ The Water in Steppe ” on the Hokkaido Association for Central Eurasian Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kume, S., Yamaguchi, Y., Hayakawa Y. S
2. 発表標題 Examining early nomadic herders' migrations to high pastures in the Central Tien Shan in the Bronze Age
3. 学会等名 Mathematical geographical modelling for environmental humanities (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久米正吾, 早川裕弐, 山口雄治, アイダ・アブディカノフ
2. 発表標題 天山山脈での移牧の始まり 初期牧畜民による高山草原地帯の開発をめぐる
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮田佳樹, 久米正吾, 宮内信雄, 堀内晶子, ヒクマトゥッラー・ホシモフ, ポキジョン・マトババエフ
2. 発表標題 ダルヴェルジン遺跡出土土器の脂質分析 フェルガナ地域での初期雑穀農耕と乳利用の可能性
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久米正吾, 早川裕弐, 山口雄治
2. 発表標題 天山山脈中央部における青銅器時代の人の居住-山岳地帯はいかに西または東からの移動経路となり得たか?-
3. 学会等名 《中国文明起源》第4回領域全体会議
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kume, S., Dalverzin
2. 発表標題 "Neolithization" and early sedentarization in the Fergana Valley in the Bronze Age
3. 学会等名 International workshop: Considering the emergence of village life in eastern Central Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 進化研究における自然淘汰論の濫用から偶然重視にむけて
3. 学会等名 日本科学史学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 ヤボネシア人がはぐくんだ植物のゲノム進化
3. 学会等名 日本進化学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 進化的に保存された非コード配列がつなぐ分子進化と形態進化
3. 学会等名 日本遺伝学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤成也
2. 発表標題 古代人と現代人のゲノムでさぐる日本列島人の歴史
3. 学会等名 日本人類遺伝学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 Investment in China's Belt and Road Project in Kazakhstan and its Risk Assessment
3. 学会等名 Investment in China's Belt and Road Project in Kazakhstan and its Risk Assessment (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 Does China's Belt and Road Initiative affect oasis agriculture in Central Asia?
3. 学会等名 The DT XIV International Conference on Arid Land (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀬野佳月, 星野仏方
2. 発表標題 気候変動と政策に左右される中央アジアのオアシス農業研究
3. 学会等名 日本沙漠学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shioya Akifumi; Ueda Akira; Chida Tetsuro
2. 発表標題 Indigenous Knowledge of Water Management in Central Asia
3. 学会等名 ANGIS (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩谷 哲史
2. 発表標題 1840年代ヒヴァ・ハン国の対露交渉 捕虜解放、通商、国境の諸問題をめぐって
3. 学会等名 東洋史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮田佳樹、久米正吾、宮内信雄、吉田邦夫、堀内晶子、ヒクマトウツラ・ホシモフ、ボキジョン・マトババエフ
2. 発表標題 タルヴェルジン遺跡出土土器の脂質分析 - フェルガナ地域での初期雑穀農耕 -
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今村 薫
2. 発表標題 フタコブラクダによる運搬技術 モンゴル国カザフ人の事例
3. 学会等名 生態人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 Satellite Tracking of Behavior Pattern of Livestock 's and Livestock Food Resources in Kazakh Dry Steppe
3. 学会等名 V International Agritechnological Summit (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 Environment risk assessment of China OBOR (BRI) project developed in Kazakhstan -The case study of the vulnerability assessments of oases agriculture in Zharkent region
3. 学会等名 V International Agritechnological Summit (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Buho Hoshino, Ying Tian, Keita Shima, Su Riga, Zoljarga Enkhtuvshin, Christopher McCarthy, Myagmartseren Purevtseren
2. 発表標題 Remotely Sensed Method for Detection of Spatial Distribution Pattern of Dryland Plants in Water Limited Ecosystem
3. 学会等名 IEEE IGARSS (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Buho Hoshino, Su Riga, Christopher McCarthy, Kaoru Imamura
2. 発表標題 Relationship between human and livestock in the nomadic life
3. 学会等名 The World Conference on Research in Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久米正吾
2. 発表標題 ユーラシア草原地帯への農耕の拡散について 山岳地帯との比較から
3. 学会等名 草原考古研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kume, S., Gakuhari, T., Arai, S., Motuzaitė Matuzevičiūtė, G., Miyata, Y., Hoshimov, H., Abdykanova, A., Matbabaev, B.
2. 発表標題 Early pastoral adaptations in the Central Tien-Shan of Kyrgyzstan and the Fergana Valley of Uzbekistan in the Bronze Age
3. 学会等名 Margins or Nodes project 's concluding conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 久米正吾、ヒクマトウツラ・ホシモフ、アイダ・アブディカノワ、ボキジョン・マトババエフ
2. 発表標題 中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る キルギス、モル・ブラク1遺跡(第1~3次)、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡(第1~2次)の発掘調査(2016-2019)
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tetsuro Chida
2. 発表標題 The Aral Sea and the Politics of Scales: Interactions and Cooperation
3. 学会等名 East-West Dialogue Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩谷哲史
2. 発表標題 カザフ草原北辺部における長距離交易と家畜の取引
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今村 薫
2. 発表標題 中央アジアにおける牧畜社会の歴史生態学的展開
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星野 仙方
2. 発表標題 カザフドライステップにおける餌資源の季節変化と家畜の行動パターンの衛星追跡
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久米 正吾
2. 発表標題 中央アジア初期農耕牧畜民の環境と文化集団 キルギス、天山山脈とウズベキスタン、フェルガナ盆地での最近の発掘調査からの新視点
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 ユーラシアにおける東西交流 DNAとゲノムからさぐる
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaoru Imamura, Sabyr Nurtazin
2. 発表標題 The distribution of the two domestic camel species and their hybrids in Kazakhstan caused by climatic and economic factors
3. 学会等名 ESCAS (The European Society for Central Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shogo Kume
2. 発表標題 Development of early farming and pastoralism in eastern Central Asia in the Bronze Age: recent excavations at the Bronze Age sites of the Fergana Valley and the Tien Shan mountains
3. 学会等名 ESCAS (The European Society for Central Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuro Chida
2. 発表標題 The ecological crisis and resilience: the livestock robustness in Kazakhstan part of the Aral Sea region
3. 学会等名 ESCAS (The European Society for Central Asian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 地田徹朗
2. 発表標題 環境と地理からみる中央アジア地域研究のあり方
3. 学会等名 日本中央アジア学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤澤明、久米正吾、Aida Abdykanova、Kunbolot Akmatov、Orozbek Soltobaev、Kubatbek Tabaldiev
2. 発表標題 キルギス共和国アイグルジャル3遺跡出土銅合金製資料に用いられた材料とその流通
3. 学会等名 文化財保存修復学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Buho Hoshino, Tian-Ying, Keita Shima
2. 発表標題 Spatial Distribution Pattern (Turing Pattern) of Dryland Plants
3. 学会等名 International Conference on Integrative Plant Physiology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 Spatial Distribution Pattern (Turning Pattern) of Drayland Plants; A Case Study of Vegetation Response to Precipitation in Water Limited Ecosystem
3. 学会等名 International Workshop on "Nomad's Seasonal Movement Insights from Recent Studies" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Buho Hoshino
2. 発表標題 One Health and Remote Sensing
3. 学会等名 The 6th One World and One Health Research Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 星野 仏方
2. 発表標題 地球及び地域規模での物質粒子の挙動と病原体の移動
3. 学会等名 大気バイオエアロゾル学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naruya Saitou
2. 発表標題 Yaponesia Genome Project; combinations of genome sequence analyses of modern humans, ancient humans, animals, and plants as well as archeological and linguistic data analyses
3. 学会等名 国際分子進化学会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤 成也
2. 発表標題 新人の拡散にしたがった新しい大陸名の提唱
3. 学会等名 日本進化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naruya Saitou
2. 発表標題 Introduction to Yaponesian Genome Project with special reference to modern human genome analyses
3. 学会等名 Asian Bioinformatics Consortium Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naruya Saitou
2. 発表標題 Genome analysis of modern and ancient human populations in East Eurasia with special reference to Japanese
3. 学会等名 中国科学院生命科学研究所（上海）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naruya Saitou
2. 発表標題 Peopling of Yaponesia, or Japanese Archipelago
3. 学会等名 中央研究院（台北）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今村薫
2. 発表標題 カザフ人の移牧とラクダによる運搬技術 モンゴル国の事例から
3. 学会等名 日本人類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 地田徹朗、ニコライ・アラディン、タルガルバイ・コヌスパエフ
2. 発表標題 『復興』から『持続可能性』フェーズへ：カザフスタン領小アラル海地域の社会・経済の現状と将来
3. 学会等名 日本沙漠学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chida, T.
2. 発表標題 Desertification, Climate Change and Border: The Aral Sea Borderlands before/after the Collapse of USSR
3. 学会等名 The Forth World Social Science Forum (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kume, S.
2. 発表標題 Early pastoralism and farming in the Tien Shan and Fergana in the Bronze Age: recent excavations.
3. 学会等名 International Seminar on Archaeology of Central Asia. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久米正吾・早川裕弐・覚張隆史・藤澤明・新井才二・金田明美・山口雄治・宮田佳樹・パフティヨル アブドゥッラエフ・ヒクマトゥッラ ホシモフ・アイダ アブディカノワ・ボキジョン マトババエフ
2. 発表標題 中央アジア初期農耕牧畜民の交流から東西交渉の始まりを探る - キルギス、モル・ブラク1遺跡(第2次)、ウズベキスタン、ダルヴェルジン遺跡(第1次)の発掘調査(2018年) -
3. 学会等名 日本西アジア考古学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 塩谷哲史
2. 発表標題 伊犁通商条約とその後 19世紀中葉ロシア帝国の対清外交
3. 学会等名 日本アルタイ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Shioya
2. 発表標題 Central Asian Studies at the University of Tsukuba: Overview," Uzbek-Japanese Round Table "The role of citizens' self-government bodies in the implementation of public control: the experience of Uzbekistan and Japan
3. 学会等名 University of Tsukuba (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Shioya
2. 発表標題 Slave Trade and Anglo-Russian Relations in Central Asia in the Nineteenth Century
3. 学会等名 Political Economies of International Commerce (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 A. Shioya
2. 発表標題 The History of a River Diversion Project: Exploring the Origins of the Aral Sea Crisis
3. 学会等名 The Department of Comparative Studies, The Ohio State University (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 今村薫、久米正吾、児玉香菜子、斎藤成也、塩谷哲史、地田徹朗、ソロンガ、廣田千恵子、星野仏方、新井才二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 254
3. 書名 中央アジア牧畜社会—人・動物・交錯・移動	

1. 著者名 今村薫、児玉香菜子、ソロンガ、廣田千恵子、星野仏方、曾我亨、田村うらら、川本芳、多仁健人	4. 発行年 2023年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 223
3. 書名 ラクダ、苛烈な自然で人と生きる	

1. 著者名 寺嶋秀明（編著）、今村薫（共著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 284
3. 書名 生態人類学は挑む SESSION2 わける・ためる	

1. 著者名 斎藤成也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 SBクリエイティブ	5. 総ページ数 226
3. 書名 人類はできそこないである	

1. 著者名 斎藤成也（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 272
3. 書名 図解 人類の進化	

1. 著者名 井ノ上逸朗（編著）、斎藤成也（分担）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 一色出版	5. 総ページ数 448
3. 書名 ヒトゲノム事典	

1. 著者名 磯貝真澄（編著）、磯貝健一（編著）、塩谷哲史（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 帝国ロシアとムスリムの法	

1. 著者名 シンジルト（編著）、地田徹朗（共著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 162
3. 書名 目でみる牧畜社会：21世紀の地球で共生を探る	

1. 著者名 日本沙漠学会編（今村薫、星野仏方、地田徹朗分担）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 504
3. 書名 沙漠学事典	

1. 著者名 Bokijon Matbabayev, B., Xoshimov, X., Kume, S.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 National Center of Archaeology/Institute of Archaeology of Samarkand	5. 総ページ数 207
3. 書名 Dalvarzin hillfort and issues of formation of the early town of Fergana valley in the Bronze Age (in Russian)	

1. 著者名 シンジルト、地田徹朗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋外国語大学出版会	5. 総ページ数 251
3. 書名 牧畜を人文学する	

1. 著者名 地田徹朗、柳澤雅之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所 (CIRAS Discussion Paper No. 103)	5. 総ページ数 55
3. 書名 ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略	

1. 著者名 塩谷哲史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 60
3. 書名 転流 アム川をめぐる中央アジアとロシアの五〇〇年史	

1. 著者名 野田仁、小松久男、塩谷哲史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 320
3. 書名 近代中央ユーラシアの眺望	

1. 著者名 Buho Hoshino, Hiroshi Nawata, Abdelaziz Karamalla Gaiballa, Kiyotsugu Yoda, Hiroshi Yasuda	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer Japan	5. 総ページ数 318
3. 書名 The Cultures of Water Management	

1. 著者名 中山裕則、星野 仏方	4. 発行年 2019年
2. 出版社 エヌ・ティー・エス	5. 総ページ数 490
3. 書名 リモートセンシングの応用・解析技術	

1. 著者名 宇山智彦、樋渡雅人、地田徹朗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 286
3. 書名 現代中央アジア：政治・経済・社会	

1. 著者名 帯谷知可、塩谷哲史、地田徹朗	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 ウズベキスタンを知るための60章	

1. 著者名 ル・児玉香菜子・アルタンチェエグ) and . (サランゲレ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Tod nomin gerel tob	5. 総ページ数 204
3. 書名 x tyx (エジネーの父たちの口述史：モンゴル語)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

中央アジアにおける牧畜社会の動態分析 家畜化から気候変動まで https://k-imamura.com/PSCA/contact.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	斎藤 成也 (Saitou Naruya) (30192587)	国立遺伝学研究所・ゲノム・進化研究系・教授 (63801)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	星野 仏方 (Hoshino Buho) (80438366)	酪農学園大学・農食環境学群・教授 (30109)	
研究分担者	兒玉 香菜子(児玉香菜子) (Kodama Kanako) (20465933)	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授 (12501)	
研究分担者	久米 正吾 (Kume Shougo) (30550777)	金沢大学・古代文明・文化資源学研究センター・特任助教 (13301)	
研究分担者	塩谷 哲史 (Shioya Akifumi) (30570197)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	地田 徹朗 (Chida Tetsurou) (10612012)	名古屋外国語大学・世界共生学部・准教授 (33925)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
カザフスタン	アルファラビ・カザフスタン国立大学	細胞遺伝学研究所		
モンゴル	モンゴル国立農業大学			
ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー	ウズベキスタン国立歴史博物館	タシケント国立東洋学大学	
キルギス	キルギス国立大学	キルギス科学アカデミー		
モンゴル	気象・水文・環境情報研究所	モンゴル国立農業大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー			
カザフスタン	アルファラビ・カザフ国立大学	ナザルバエフ大学		
カザフスタン	アルファラビ。カザフ国立大学	ナザルバエフ大学		
モンゴル	モンゴル国立農業大学	気象・水文・環境情報研究所「		
ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー			
カザフスタン	アルファラビ・カザフ国立大学	ナザルバエフ大学	細胞遺伝学研究所	
モンゴル	モンゴル国立農業大学			
ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー	ウズベキスタン国立歴史博物館	タシケント国立東洋学大学	
その他の国・地域 キルギス	キルギス国立大学	キルギス科学アカデミー		
カザフスタン	アルファラビ・カザフスタン国立大学	細胞遺伝学研究所		
モンゴル	モンゴル国立農業大学			
ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー	ウズベキスタン国立歴史博物館	タシケント国立東洋学大学	
キルギス	キルギス国立大学	キルギス科学アカデミー		